

2022年7月13日

報道関係社各位

慶應義塾大学

阿蘇の草原を活かす「エシカルな畜産業」の創出に向けた産学官連携協定を締結 ～熊本県南阿蘇村、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、熊本県畜産農業協同組合連合会が、 エシカル消費に対応した「くまもとあか牛」の生産と草原環境維持を目的とした取り組みを開始～

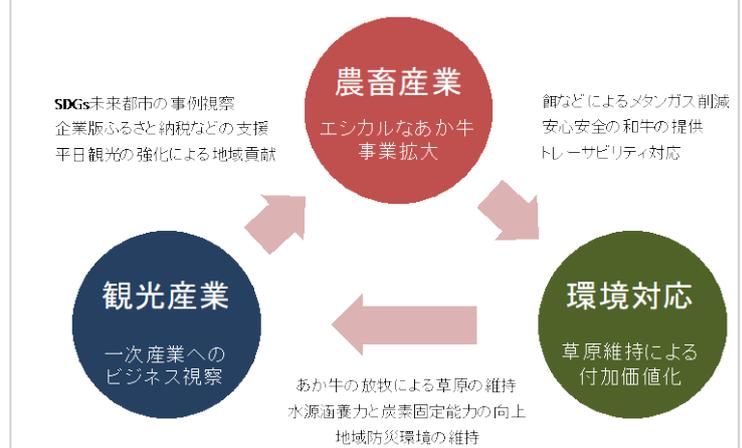
熊本県南阿蘇村（村長：吉良清一 以下、南阿蘇村）と慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科（横浜市港北区、研究科委員長：稲蔭正彦 以下、KMD）、熊本県畜産農業協同組合連合会（代表理事会長：荒牧弘幸 以下、熊本県畜連）は南阿蘇村に位置する大草原と共生してきた「くまもとあか牛」の産業支援を通じて、人や環境、社会に配慮した「エシカル消費」に対応した産業の創出を目的とし、7月12日に相互連携協定を締結しました。

本協定は2006年に締結された南阿蘇村と東海大学九州キャンパスとの連携協定を踏まえ、生産者支援組合である熊本県畜連と協働して販売促進支援の実績があるKMDとの連携に拡大することで、農業においては生産から販売までのサポートを、環境・観光においては地域と都市部との新たな連携を推進していきます。



（写真：左から）KMD 岸博幸教授、南阿蘇村 吉良清一村長、熊本県畜連 本田参事

南阿蘇村での今後の取り組み検討について



【相互連携協定における連携項目】

- (1) 草原や地下水等の環境保全による持続可能な地場産業の振興と創出に向けた連携
- (2) 中山間地域を中心とした産業のブランド化と6次化支援のための連携
- (3) 地域共創を目指した体制構築および運営支援のための連携
- (4) 文化・教育・学術の振興、発展のための連携
- (5) 人材育成のための連携

■ 本締結のポイント

- ・「くまもとあか牛」の放牧が盛んな阿蘇の大草原は水を蓄える力が強く、地域の防災に貢献している
- ・カシューナッツ殻液を含む飼料を牛に与えることで牛由来のメタンガス排出抑制を目指す取り組みを開始
- ・エシカル消費※に対応した取り組みについて域外からの視察・研修の受入を通じ平日観光の活性化とセットで推進

※エシカル消費：地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動の事（消費者庁 HP より）

■ 背景：SDGs は宣言から実行へ具体的な取り組みが求められる時代へ

今年5月にSDGs未来都市に選定された南阿蘇村が目指す「3つのKによる『誰もが住みたい・住み続けたい南阿蘇村』の構築」について、今回の事業を通じて持続可能な地域活性に向けた活動を支援します。

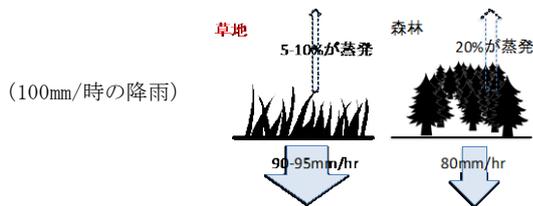


■ 阿蘇の草原の持つ水源涵養力とその維持に貢献する「くまもとあか牛」のエシカル化を目指す

近年の食に対する環境負荷軽減やトレーサビリティ（記録の共有）、安全性などのニーズの高まりに対して、本協定に基づきエシカルな和牛の生産を通じた対応を進めます。特に畜産業におけるCO₂排出量の大きな課題であるメタンガス削減に向けて、東海大学九州キャンパス（農学部）と連携し、カシューナッツ殻液を含む飼料を牛に与えることで牛由来のメタンガス排出抑制を目指す取り組みを支援します。

また、九州の水源として重要な役割を担っている阿蘇の大草原における「くまもとあか牛」の放牧を通じた草原環境の維持（水源涵養力）と観光振興施策の検討を通じて、生産者の所得向上や担い手育成、雇用創出にも取り組みます。

阿蘇の草原がもつ水源涵養力



今後草原が減ると地下水、河川水量が減少。
(出典：塚本良則編「森林水文学」1992)

環境負荷の少ない「くまもとあか牛」の生産

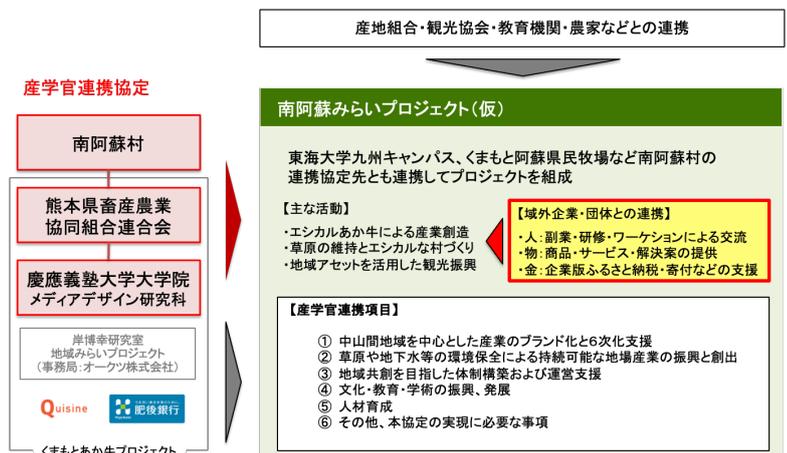


カシューナッツ殻液を含む飼料を牛に与えることで牛由来のメタンガス排出抑制効果が見込まれる。
(出典：北海道大学・出光興産の共同研究 2010)

■ 協定に基づく今後の事業実施体制について

本協定に基づき、「地域課題の解決」と「民間企業による支援（企業版ふるさと納税の活用など）」の受け皿として、南阿蘇みらいプロジェクト（仮）を組成し、地域内外との連携を拡大・推進します。

これにより地域課題の解決だけでなく、大企業やベンチャー企業の新商品・サービスにおける持続可能性の実証の場としても活用する事で、都心部やデジタル上では実証できない課題などの洗い出し、解決の支援を行うイノベーションを創出する体制の構築を目指します。



■ (ご参考) これまでの活動について：くまもとあか牛プロジェクト (2018年～)

2018年より、KMDでは熊本県下のあか牛生産農家数が減少している現状をふまえて、都市部での販路開拓支援や歩留まり改善に向けた技術導入支援、および新しい事業モデルの検証支援を実施してきました。2019年11月29日(いい肉の日)に産学官連携協定を締結し、畜産業と地域活性化に向けた域内外との連携事業と活動を続けています。



(写真) 熊本県を立会人として、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科(岸博幸研究室)と熊本県畜産農業協同組合連合会、株式会社肥後銀行は産学官金の連携協定を締結

- 【目的】
- ・時代の変化に対応した畜産・商品開発
 - ・和牛の等級に依存しない「あか牛」の販売促進
 - ・新たな技術を活用した生産性と提供品質の向上

■ 熊本県南阿蘇村

村長 : 吉良 清一
住所 : 熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字河陽 1705 番地 1
URL : <https://www.vill.minamiaso.lg.jp/>

■ 熊本県畜産農業協働組合連合会

会長 : 荒牧 弘幸
住所 : 熊本県熊本市東区桜木 6 丁目 3 番 54 号
URL : <https://akaushi.jp/>

■ 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

メディアデザイン研究科(KMD)は、イノベーションを自ら生み出し社会に向けて価値を創出する能力を持つ「メディア・イノベータ」の育成をミッションとしています。メディア・イノベータは分野や国境の枠を超えてグローバルに活動し、ポストパンデミックにおける創造社会を先導していきます。

研究科委員長 : 稲蔭 正彦 教授
住所 : 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1
URL : <https://www.kmd.keio.ac.jp/>

■ 地域みらいプロジェクト

「持続可能な地域活性」の実現をミッションとし、専門家視点ではなく地域の実行者目線で最新技術や社会情勢を踏まえた解決案を実情に合わせて体験しながら創ります。地域の課題や特徴などの“気づき”を住民の方と一緒に得ながら産官学のオープンイノベーション体制を構築してプロジェクトを実行しています。

担当教官 : 岸 博幸 教授
プロジェクトリーダー : 大江 貴志 研究員
URL : <https://chiki-mirai.localinfo.jp/>

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、各社社会部等に送信しております。

【本調査内容に関するお問い合わせ先】

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科 研究員 岸浪 聖
Email : sei.kishinami@kmd.keio.ac.jp

【本発表資料のお問い合わせ先】

慶應義塾広報室(澤野)
TEL : 03-5427-1541 FAX : 03-5441-7640
Email : m-pr@adst.keio.ac.jp URL : <https://www.keio.ac.jp/>